

上院司法委員会、Andrei Iancu 氏を USPTO 長官として承認するための公聴会を開催

2017 年 11 月 29 日
JETRO NY 知的財産部
柳澤、笠原

第 115 議会上院司法委員会（委員長 Chuck Grassley 議員（アイオワ州選出、共和党）は、本日 11 月 29 日、Andrei Iancu 氏¹を米国特許商標庁（以下、USPTO）長官として承認するための公聴会を開催²した。

公聴会において Grassley 議員、及び Coons 議員（デラウェア州選出、民主党）から質問を受けた Andrei Iancu 氏は、特許無効審判（以下、IPR）について有識者と議論を行い必要な改善を図るなどして安定性、信頼性の高い特許システムを築いていきたいと述べた。また特許適格性の問題についても、USPTO は既にガイダンスを策定しているが、更にどのようなガイダンスを策定できるか検討したいと述べた。

承認のための上院による投票のスケジュールは、現時点では未定である。

（参考）主な質疑応答

Grassley, Coons:

IPR は特許権者に不利な制度となっていると言われており、多くの批判を受けているが、この問題についてどのように対処していくつもりか。

Iancu :

IPR について多くの批判があることは承知している。バランスに留意しつつ発明者や投資家の信頼を損なわないような知的財産システムを築くことが重要と考える。有識者と協力しつつ現状をよく把握して、どのような改善を図るべきか検討し、安定性、信頼性の高い特許システムを築いていきたい。

¹ トランプ大統領、Andrei Iancu 氏を USPTO 長官に指名（2017 年 8 月 28 日、ジェトロ ニューヨーク IP ニュース）

² <https://www.judiciary.senate.gov/meetings/11/29/2017/nominations>

Coons:

特許適格性については、最高裁判所の判決によって何が特許になるかという点についての不確実性が増してしまったと思っている。特許適格性に関する最高裁判所の判決はイノベーションを促進するものだと思うか。また、USPTO 長官になった場合には特許適格性の問題についてどのように対処しようと考えているか。

Iancu:

下級裁判所は、最高裁判所が示した特許適格性判断のためのテストを踏まえて、どのレベルが適当なラインかということを模索しているところ。今後の実務的な検討の深まりを見ていくことが重要だと考える。

USPTO においてどのように対応するかという点についてだが、USPTO は既に特許適格性の問題についてのガイダンスを公表している。しかし、より踏み込んだ対応も可能だと思っている。USPTO 長官として承認された場合には、特許適格性の問題について、更にどのようなガイダンスを策定・公表できるか優先度を高くして検討していきたい。

Coons:

商務省の Shared Service Initiative (このイニシアティブの下で USPTO の手数料歳入が商務省の新政策の財源に用いられている) に USPTO は今後も協力を要請され続けるのかという質問をロス長官に送ったが、十分な回答が得られていない。USPTO の歳入はユーザーによって支払われたものであり、それを商務省の財源として用いるのは不適切だと考える。USPTO 長官に就任したら 1 か月以内に質問に対して十分な回答をしてほしい。

Iancu:

承知した。

Grassley:

USPTO 長官は大統領に知的財産政策についてのアドバイスをすることができる。USPTO 長官に就任したら、どのようなアドバイスをするか。

Iancu:

まず知的財産システムや発明の重要性についての啓発を推進すべきということをアドバイスしたい。また貿易相手国の知的財産制度を強化する働きかけを推

進すべき点をアドバイスしたい。

Grassley:

Patent Assertion Entity による特許権の濫用は依然として大きな問題という声もあるが、どのように対応すべきと考えているか。

Iancu:

最も重要なのは全体としてよく機能するバランスのとれた知的財産システムを構築すること。これまで議会や裁判所によって多くの対応がなされている。これらの対応の発展をよく見たうえで、さらなる対応が必要なのかどうかを注意深く検討していく必要があると考える。